



我が校の校訓と学校教育目標

校長 井之上 良一

新年明けましておめでとうございます。本年が、皆様方にとりまして、健やかで実り多
く充実した一年となることを心よりお祈り申し上げます。

さて、私は昨年、縁あって本校の学校経営、学校運営に携わるといふ機会を与えて
いただきました。それから約10か月。その間、今後、改善が必要だと考えさせられる課題に
二つほど遭遇しました。今回は、このことに関する所信を述べさせていただきますと思
います。併せて、標題の「校訓と学校教育目標」につきまして、私見を述べさせてい
たきたいと思います。

まず、一つめは、本校は今、一つの転換点にあるのではないかということです。このこ
とは、在籍生徒数の減少と無関係ではありません。御承知のとおり本校は、本年度の教育
活動を創立以来最少となる在籍数11名で展開しております。これだけの少人数でありな
がら、校区合同運動会や文化祭を立派に運営し、成功裡に終えることができたのは、本
校の職員と生徒の努力、保護者や地域の皆様方の御支援の賜物というほかありません。

このことに関しましては、地域の皆様方からも、生徒たちに対する温かい賞賛の声をい
ろいろといただいております。しかしながら、一方では、「もっと学校の特色を創り出せな
いか」、「学校に以前の活気を取り戻してほしい。」といった叱咤の声も頂戴しております。

少子高齢化と過疎化の急速な進行により、往時の賑わいを取り戻すことが難しいこと
は言うまでもないことです。しかし、本校に奉職する者の務めとして、何らかの努力を続け
ていくことは当然のことであり、先の言葉は真摯に受け止めなければならないと考えてお
ります。すなわち、一つめの課題は、特色ある学校づくりを推進し、生徒数の増加に努め
るということです。

今の時代は、校区内の小学校から在籍児童がそのまま進学してくる時代ではないと思
います。私立・県立の中高一貫校への進学や「就学すべき学校の指定の変更」など、多様な
選択肢が用意されており、交通の利便性の良いところに居住していれば、自分をより良く
伸ばしてくれる学校を選択できる時代になってきています。このことは、学習の「個別最
適化」の考え方に依拠すれば、望ましい方向でもあるわけです。それだけに、公立中学校
には、相応の努力が求められる時代を迎えているのだと思います。

二つめは、学校は、驚くほど社会の変化から取り残されている、あるいは、そのこと
に対して受動的であるということです。このことは、本校に限らず、どの学校でも大なり小
なり直面している問題だと思えます。しかし、日本の公立中学校の中には、学習の「個別
最適化」を目指して、教科によってはタブレット端末を用いて、個別に適合した課題に挑
戦させている学校もあります。彼我の差の大きさを思わずにはおられません、ソフト面
はさておき、ハード面の問題もありますので、国や地方公共団体の責任という側面もあり
ます。

実は、最近、驚愕したことがあります。それは、「世界で唯一、日本の子どものパソコン
使用率が低下している」という事実です。平成30年実施の経済協力開発機構の国際学力
調査によると、日本の場合、「自宅にノートパソコンがあり、自分もそれを使う」と答えた
生徒の割合は35%でしかなかったとのことです。ちなみに、同調査によると、諸外国で
は、アメリカが73%、イギリスが78%、デンマークにいたっては94%となっており、
隣国の韓国でも63%となっているそうです。(学校での使用率も同じような傾向にあるそ
うです。)

事が深刻なのは、日本の場合、スマホの所持率と使用頻度が他国と比べて高く、ゲーム
等に興じる時間が長いと推定されることです。いわゆる「ゲーム脳」の危険性については、
ここでは触れませんが、これからの時代、情報の消費者に甘んじるのではなく、情報の生

産者(創作者)となることが求められていることを考えると、憂慮すべきことです。

今や、学習指導要領をひもどくまでもなく、ICT(情報通信技術)機器やパソコン、
AI(人工知能)などの有用性や利便性を学ばせることは、学校においては急務となっ
ていることを再認識する必要があります。長々と、説明をしてきましたが、要するに、二つ
めの課題は、ICT教育を積極的に推進する必要があるということです。

ところで、本校の特色の創出とICT活用という二つの課題を併せ考える時、私は、欠
落させてはいけない重要な視点があると思っています。それは、AIに慣れ親しむのと同
じか、それ以上に大切なことです。すなわち、自然と触れ合い、自然に学び、発見の喜び
や観察と分析の力、つまり、自ら感じ考える能力をしっかりと育てる必要があるとい
うことです。こうした資質・能力は、自然から学ぶという意味で、「NI(Natural Intelligenc
e)」と呼ぶ人もいます。今後は、これまで以上に、実物や本物に接したり、動植物を飼育
・栽培したり、実際に物を作ってみたりするなどの直接的な体験を重視した教育活動が重
要性を増していくものと考えております。本校においては、次年度は、花や野菜の栽培活
動や「子供がつくる弁当の日」の活動などを新たに導入することとしております。

これからの10年の教育を展望するとき、時代に適合したICT活用の知識や技能とと
もに、不易として大切にされてきた豊かな感性や情緒という、一見すると、相反するベク
トルのように見える、両方の資質・能力の伸長に取り組んでいかなければならないのだと
強く認識する次第です。

年頭に当たりまして、学校の経営、運営に関する所信を述べさせていただきました。「子
年」は、古くから物事を新しく始めるのにふさわしい年とも言われております。また、令
和2年度から小学校で、令和3年度からは中学校で新しい学習指導要領が完全実施され、
令和3年度には、本校区でもコミュニティ・スクールが導入されます。さらに本年度は、
折しも、創立70周年記念の節目の年に当たります。これらのことに鑑み、土橋中学校の
新たな教育活動の展開を別途として、「校訓および学校教育目標」を更新してはどうか
と考えております。

現在、試案として、考えているものは以下に示すとおりです。二本立てであった「校訓
と学校教育目標」を一本化(一元化)して、目指すものをより明確にしたいという考えに
基づくものであり、換言すれば、旗幟を鮮明にしたいということでもあります。

【校訓＝学校教育目標(案)】

「同学(どうがく)」

吉田松陰が、門弟たちを「同学」と呼び、同じ志を持って学
ぶ者として、尊重していたことに由来。教育は、教える者と学
ぶ者の相互の信愛に基づくものであり、同じところで、同じ理
想を目指して学び合うという意。

「共働(きょうどう)」

自律した個人や集団、団体等(生徒・学校・保護者・地域な
ど)が相互の良さを発揮し、役割を果たしつつ、連携、協働し
て課題の解決に取り組むという意。

「琢磨(たくま)」

「玉磨かざれば光なし」、「艱難汝(かんなんなんじ)を玉にす」。苦難を乗り越え、心身を錬
磨したり、所属する集団に与えられた役割や意味などを追求・探求したりするという意

注: 覚え方は、「どう きょう たくましく」更新された場合、現校訓は「伝統」として残すこととなります。



現校訓(昭和57年度より)

学校教育目標だけならいざ知らず、校訓まで改定するということは、あるいは矩をこえ
た試みなのかもしれません。別刷り「本校の『校訓および学校教育目標』の変遷」も御参
照いただきまして、直接、間接を問わず、忌憚のない御意見をお寄せいただければ幸甚で
す。皆様方の生の声が聴けることを切に願っています。

土橋地区新年式典 1/1

1月1日に土橋地区公民館で開催された新年式典に、中学生も参加し、式典の運営に貢献してくれました。2年生の

さんは司会進行を、2年生の

さんは「新年の抱負」発表を、1年生のさんはピアノ伴奏を担当しました。3人とも、無事大役を果たし、素晴らしい新年のスタートを切ることができました。



新春書き初め大会 1/8

3学期始業式の後に、全生徒で書き初めを行いました。1年生は「大洋」、2年生は「流れる雲」、3年生は「栄光のかけ橋」を行書で挑戦しました。どの生徒も真剣な表情で、集中して取り組んでおり、立派な作品を仕上げていました。令和2年の初めての授業でしたが、とても充実した学習になりました。



良い「授業初め」になりました。

選書会 12/23

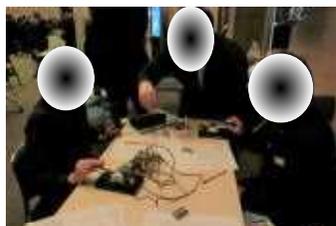
伊集院地域女性団体様や同窓会の皆様からいただいた御寄付で図書を購入させていただきました。心から御礼申し上げます。

今年度も図書選定のための選書会を実施し、生徒それぞれの「読みたい1冊」を選んでもらいました。多くの本の中から、思い思いに本を手にとり、うれしそうな表情を浮かべていました。



2年生高校訪問 12/18

進路希望先を決定するまであと1年となった2年生が、伊集院高校と樟南高校を訪問し、また、鹿兒島地区専門高校フェスタにも参加して上級学校への理解を深めました。2つの高校では、学校の特徴を説明していただいたり、施設見学をしたりしました。専門高校フェスタでは、各学校の特色ある教育活動を実際に体験することもでき、興味深そうに各ブースを回る様子が見られました。



ありがとうございます

今年も中川自治会の民生委員、様から立派なしめ縄をいただきました。また、竹之山自治会の前会長、様に防球ネットを製作していただきました。心から感謝申し上げます。



おめでとうございます

○ 俳句雑誌「轍」2020年1・2月号掲載 3年 さん
栗飯の色こそ秋を食らはしお
他4句掲載されました。

日	曜	2月の主な行事予定
3	月	おひさまあいさつの日
5	水	3年生学年末テスト（～7日）
8	土	土曜授業
11	火	(祝) 建国記念の日
12	水	巡回図書
13	木	中学校入学説明会 部活動停止期間（～19日）
14	金	学年末PTA 学校評議員会 2年生譲り葉の会
18	火	1・2年生学年末テスト（～20日）
23	日	(祝) 天皇誕生日
24	月	振替休日
25	火	巡回図書